



## 臨床データサイエンス学環を開設します



北海道医療大学 学長 三国 久美

本学では、2026年4月に「臨床データサイエンス学環」を開設します。

「学環(がっかん)」とは、複数の学部が連携して分野横断的な教育を行う学位プログラムで、従来の学部の枠を越えた新しい学びの形です。学環の設置は全国的にもまだ少なく、北海道では本学が初めてとなります。臨床データサイエンス学環の修業年限は4年で、定員は15名とし、少人数教育により、一人ひとりに寄り添った丁寧な教育の提供をめざします。

臨床データサイエンス学環では、医療・福祉とデータサイエンスをつなぐ人材の育成をめざします。そのために、生成AIなどの先端技術を含むデータサイエンスの知識や技能に加え、人の心と体のしくみを基礎から学びます。また、患者さん一人ひとりの価値観を尊重し、最善の医療を提供するための倫理観を養う医療倫理教育にも力を入れています。さらに、医療や福祉の専門職の視点を理解し、実践的なコミュニケーション力を身につけるため、他学部の学生とともに多職種連携について学ぶ科目を複数配置しています。

3年次には、医療機関や社会福祉施設など、治療やケアが行われている現場でインターンシップを行います。こうした臨床現場での体験を通して、医療や福祉分野で生じている課題を理解し、その解決やDX(デジタルトランスフォーメーション)の推進に向けて、データサイエンスを活用できる力を養います。

本学では、全国の医療系大学に先駆けてデータサイエンス教育を導入してきました。2021年度には、文部科学省による認定制度「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム(MDASH)」のリテラシーレベルに認定され、認定を受けた教育プログラムの中から、特に優れたプログラムとして、リテラシーレベルプラスにも選定されています。さらに、2024年度には北海道内の私立大学では初めてMDASHの応用基礎レベル、応用基礎レベルプラスの認定校・選定校となりました。このように、人工知能を含む先進的なデータサイエンス教育の蓄積がある本学だからこそ、医療とデータサイエンスの両分野に精通した人材の育成が可能です。

AIが急速に普及する現代において、既存の学部の学生にとっても、学環の学生とともに学ぶことは大きな刺激となり、学びの幅を広げる良い効果が期待されます。

現在、データサイエンティストは全国的に不足しています。特に医療・福祉分野では、他の産業に比べてDXの導入が遅れている一方で、深刻な人材不足への対応としてDX推進への期待が高まっています。少子高齢化が全国平均以上に進む北海道においては、医療・福祉分野のDXを担う人材の育成が、今後ますます重要になります。

臨床データサイエンス学環で学んだ卒業生が、医療・福祉の変革者として活躍することを楽しみにしています。

## CONTENTS

臨床データサイエンス学環を開設します	1
歯学部附属歯科衛生士専門学校	2
新校長就任のお知らせ	
国際交流について	
授業REPORT	3
『医療データサイエンス入門I・II』	
自治体との連携について	4
地域貢献活動・職業体験イベント	5
STUDENTS' ACTIVITIES & EVENTS	6
ポラリス基金のご案内	7
定年を迎える先生からのメッセージ	8
2025年度 理事長表彰について	9
同窓会活動状況	10
TOPICS	12
EDITOR'S NOTE	

## 歯学部附属歯科衛生士専門学校 新校長就任のお知らせ

歯科衛生士専門学校で初となる、本校卒業生・歯科衛生士の校長が就任しました。

岡橋校長  
メッセージ



校長 岡橋 智恵

1989年3月 学校法人東日本学園大学歯学部附属歯科衛生士専門学校 卒業  
歯科衛生士免許取得  
1995年8月 北海道医療大学歯学部附属歯科衛生士専門学校 教育補助員  
1996年4月 北海道医療大学歯学部附属歯科衛生士専門学校 専任教員  
2013年4月 北海道医療大学歯学部附属歯科衛生士専門学校 教務主任  
2026年1月 北海道医療大学歯学部附属歯科衛生士専門学校 校長

2026年1月より、本校の校長に就任いたしました。私は、1989年に本校(当時は東日本学園大学歯学部附属)を卒業し、歯科衛生士としての第一歩を踏み出しました。7年の臨床現場を経て恩師の勧めもあり教育の現場に飛び込みました。私自身が本校の卒業生であり、専任教員として長く勤めてきたからこそ、本校の教育の質の高さと、アットホームな温かさを誰よりも強く実感しております。

本校は北海道で唯一の歯学部附属校です。北海道医療大学との強固なネットワークを活かし、歯学部の講師陣から直接指導を受けられるなど、非常に専門性の高い学びの場を整えています。大学附属医療機関での臨床実習という恵まれた環境下で、最新の歯科医療に触れながら、「高度な知識・確かな技術」だけでなく、患者様の心に寄り添う「豊かな人間性」を育むことを目指しています。

これからの医療現場で欠かせないのが、他の専門職と協力し合う力です。本校では、歯科医師を目指す学生との連携実習に加え、大学の学生たちと共に学ぶ「多職種連携教育」を実践しています。学生のうちから職種の垣根を越え学びあうことで、現場での即戦力として活躍できる「連携の力」を自然と身につけることができます。学習面だけでなく、サークル活動や大学祭などの課外活動も大学と一体となって行われており、学部や学校の垣根を越えた交流ができることも本校の大きな魅力です。

今後も学生一人ひとりに寄り添う、きめ細かな指導と支援によって、学生と教員の距離が近く、家族のような温かさがある本校の伝統を、大切に守っていきたくと考えております。今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

## 国際交流について

### TOPICS 01

#### 上海事務所開設について

2025年11月1日(土)に、中国・上海にアジア圏からの留学生を支援する事務所を設置し、11月17日(月)に開所式を行いました。本学の海外拠点は、台湾、韓国に続いて3か所目となります。中国人留学生向け教育で最大手の「行知学園」と連携し、上海での相談業務を委託します。



### TOPICS 02

#### 全北大学看護学部との学部間交流協定を締結

本学看護福祉学部は、韓国・全北大学看護学部と学部間交流協定を締結しました。2026年1月9日(金)、全北大学看護学部のSeok Hee Jeong 学部長をはじめ、教職員12名および大学院生12名が来日し、本学サテライトキャンパスにて調印式を執り行いました。本学からは、山田看護福祉学部長、桑原看護学科長、塚本教授、安彦国際交流推進センター長が出席し、両大学・学部の紹介の後、両学部長による協定書への署名が行われました。調印式終了後は、全北大学大学院生による研究発表も行われ、活発な意見交換の場となりました。



### TOPICS 03

#### ドイツと韓国から短期研修生を受け入れました

2025年9月から10月にかけて、以下の学生が本学歯学部にて短期研修を実施。両大学は協定校外ですが、学生の希望により受け入れを行いました。



大学(国)	研修期間	参加学生
クリスティアン・アルブレヒト大学キール(ドイツ)	2025年 9月1日(月)～5日(金)	歯学部4年生
ソウル大学(韓国)	2025年 9月29日(月)～10月3日(金)	歯学部DDS課程4年生

### TOPICS 04

#### 海外協定校へ学生を派遣します

本学が大学(学部)間学術交流協定を締結する海外の大学・機関において、相互交流プログラムに基づき、「海外短期研修」として2026年3月に学生を派遣します。

薬学部は、国立ルブリン医科大学(ポーランド)、医療技術学部は、チュラロンコン大学(タイ)及びイエテボリ大学(スウェーデン)にそれぞれ学生を派遣します。

また、歯学部では、「海外短期臨床研修及び実習の実施を前提に、イエテボリ大学(スウェーデン)、ストラスブール大学(フランス)、キョンヒ大学(韓国)、チュラロンコン大学(タイ)、マヒドン大学(タイ)及びチューリングン病院(ドイツ)に学生を派遣します。なお、今後、各海外協定校から本学への学生派遣が行われる予定です。

# 医療分野はもちろん、 社会のさまざまな課題解決に役立つ データサイエンスを学びます。

今、医療業界で求められているのは、医療に関する高度で複雑なデータを活用し、より精度の高い診断・治療の提供につなげるデータサイエンスのスキル。人々の健康はもちろん、さまざまな社会課題の解決に貢献することが期待されています。

そこで本学は、全学でデータサイエンスの学びを展開。「医療データサイエンス入門I・II」は、薬学部、歯学部、心理科学部、リハビリテーション科学部(理学療法学科、作業療法学科)、医療技術学部で開講されている応用基礎科目です。さらに、2026年4月には、「臨床データサイエンス学環」を開設し、より高度な教育をスタート。全国でも類を見ない先駆的な教育システムの構築において中心的な役割を果たしてきた、二瓶裕之教授にお話を伺いました。

## AI時代の、即戦力を育成。

本学では、AI時代で即戦力となる新しい医療人を育成するために、データサイエンスを学ぶ選択肢を広げています。保健・医療・福祉の分野で扱われているデータは、数値や画像、文章、時間変化などが折り重なっており、人の命にかかわるため正確さが求められます。そんな複雑なデータを使ってデータサイエンスを学ぶことで、病院や社会福祉施設はもちろん、行政機関、民間企業など幅広いフィールドで役立つスキルを身につけられると考えています。

「医療データサイエンス入門I・II」は、薬学部、歯学部、心理科学部、リハビリテーション科学部(理学療法学科、作業療法学科)、医療技術学部で開講されている応用基礎科目です。画像認識や生成AIをはじめ、データサイエンスに関するノウハウを網羅し、人工知能を活用するために必要なスキルの全体像を理解することができます。講義だけではなく、グループワークや課題解決型学修(PBL)も積極的に導入。一人ひとりの学生が主体的に楽しみながらデータサイエンスを学ぶことができます。そして、教員と学生がつくったオリジナル教材を使用していることも、本科目の大きな特色です。



学生一人ひとりの主体的な学びをサポート。

## 健康を、模型都市で学習。

オリジナル教材の代表例として、ブロック型の遊具の模型都市を挙げるすることができます。教員と学生が1年以上をかけてつくったこの教材は、文部科学省の「数理データサイエンスAI教育プログラム認定制度」においても、特色ある教育プログラムとして選定されました。学生たちは、模型都市を眺めながら、危険、混雑、転倒など人の健康を阻害するようなシーンを捉えて撮影します。そして、その画像データを人工知能に学習させるという演習を行います。目的は、人工知

能を使った、在宅高齢者の健康悪化リスクを予測。そのプロセスを学ぶために、模型都市の教材を開発しました。

たとえば、車が来ているのに歩行者が道路を横切っている、つまずきやすい段差がある、大きく不安定な荷物を抱えている、

高いビルから身を乗り出している、狭い場所に人が密集しているなどのシーンは、健康を阻害する可能性のある危険なシーンです。それらの画像を学習していくことで、人工知能は危険という抽象的な物事を理解できるようになっていきます。予測・判断の精度は、自分たちで作ったデータの質に左右されるため、画像の撮り直しなどの手探りの作業を進めながら、人工知能の精度を高めていく探究のサイクルを体感します。

危険とは何かと同様に、人工知能は安全や快適、暮らしやすい都市環境、健康な生活などについても学習することができます。たとえば、一息をつける公園や屋上緑地、歩きやすい歩行者空間、住民が集まれるコミュニティ施設など。さまざまな画像を通して、どんな都市が快適か、健康な生活とは何かについて、人工知能だけではなく、学生自身もより深く学ぶことができます。

数値や画像のデータを人工知能に学習させ、データの中に隠されている傾向や特徴を見つけ出す。そのスキルは、保健・医療・福祉のさまざまな場面で応用できます。たとえば、レントゲンやCTの画像から異常のサインを見つけ出す、検査値の変化から重症化の予兆を察知するというのも、より早期に正確にできるようになります。また、保健・医療・福祉に限らず、スポーツの動作分析、交通の混雑予測、防災の被害推定、農業の生育判定など幅広い分野で活用できるスキルへとつながります。

模型都市のほかにも、人工知能を搭載した見守りロボなど、一人ひとりの学生が手を動かしながらデータサイエンスのスキルを体験できるオリジナル教材を開発。データサイエンスが保健・医療・福祉をはじめ、社会のさまざまな分野で課題解決に貢献できる可能性を実感してほしいと考えています。

## より深く、新しい学びを。

2026年4月、本学は診断や治療の精度向上に貢献するデータサイエンティストの育成をめざす「臨床



模型都市の中から危険なシーンの画像を撮影。



臨床データサイエンス学環 教授  
(2026年4月着任予定) /  
情報センター長

## 二瓶 裕之

北海道大学工学部卒業。北海道大学大学院電子工学専攻(博士課程)単位取得退学。青森職業能力開発短期大学校情報技術科助教授などを経て、2006年本学薬学部准教授。2014年より同学部教授、本学情報センター長。2026年4月臨床データサイエンス学環教授着任予定。専門分野は数理・データサイエンス・AI教育、教育工学など。



データサイエンス学環」を開設します。私も学環の専任教員として、学生の学びをサポートします。「医療データサイエンス入門I・II」という同名の科目も開講されますが、既存学部で扱っている各単元を、同2科目を含む20以上の科目に細分化したカリキュラムを構成。より深く高度なスキルを学ぶことができます。

また、学環とは、複数の学部が連携した学部等連係課程のことです。これまで本学が培ってきた医療系教育、多職種連携、データサイエンス教育を融合した新しい学びを展開します。データサイエンスの専門的なスキルに加えて、他学部で展開している幅広い分野を横断的に学ぶことができます。データサイエンティストをめざしながら、保健・医療・福祉の専門的な知識を学べる教育課程は、全国的にもほとんどありません。さらに、定員15名という少人数制教育。医療機関や社会福祉施設だけではなく、製薬・医療機器の開発、スポーツやヘルスケアなど幅広いフィールドで活躍できる人材を育成する、本学独自の教育体制を整備しています。

保健・医療・福祉に興味がある学生はもちろん、純粋に人工知能やITに興味がある学生にも広く門戸を開いています。将来的には、臨床データサイエンス学環に入学した学生が、ぜひ他学部の学生と協働し、さまざまな社会課題の探究・解決に取り組んでもらいたいという期待を抱いています。



臨床データサイエンス学環特設サイトで使用している画像や動画のほとんどは、生成AIで制作。



特設サイトはこちら

# 自治体との連携について

## 北海道北広島高等学校(北広島市)、星槎道都大学(北広島市)との高大連携に関する三者連携協定を締結しました

2025年9月26日(金)、北海道北広島高等学校、星槎道都大学と本学は、高大連携に関する三者連携協定を締結いたしました。

本協定は、地域の未来を担う人材育成や地域活性化など、社会貢献を目的とした取り組みを共同で実施するためのものです。高校生が地域社会の課題に取り組む意識を高め、大学進学への探究心を育むような活動を予定しています。



左から、北広島高等学校 齊藤校長、本学 三国学長、星槎道都大学 飯浜学長

## 利尻富士町と包括連携協定を締結しました

2025年9月30日(火)、北海道医療大学は、利尻富士町と包括連携協定を締結いたしました。

今回の協定は、利尻富士町と北海道医療大学とが包括的な連携のもと、相互の資源を活用した連携を強化することを目的として締結されたものです。人的・知的資源の交流をはかるとともに物的資源を活用し、協力して地域貢献を目指します。



左から、三国学長、田村町長

## 公立千歳科学技術大学(千歳市)と包括連携協定を締結しました

2025年10月6日(月)、公立千歳科学技術大学(千歳市)と包括連携協定を締結いたしました。

本学と公立千歳科学技術大学は、2009年に大学院修士課程の単位互換認定を行うための「5大学連携事業(戦略的・大学連携支援事業:文部科学省)」において連携協定を締結して以来、大学院教育を中心に緊密な関係を維持してまいりました。

本学では、2026年4月に「臨床データサイエンス学環」を新設いたします(文部科学省に設置届出・受理済み)。今後、本協定に基づいて、「医療福祉分野におけるデータサイエンス教育の推進」、「データサイエンティストの育成」、ならびに「医療福祉DX領域における学際的研究の推進」などをすすめていきたいと考えています。

左から、公立千歳科学技術大学 鈴木副学長、公立千歳科学技術大学 宮永理事長・学長、本学 三国学長、本学 和田副学長

## 公立千歳科学技術大学 北海道医療大学 包括連携協定 締結式



## 北海道歯科技術専門学校(北広島市)と包括連携協定を締結しました

2026年1月28日(水)、北海道歯科技術専門学校と包括連携協定を締結いたしました。

北海道歯科技術専門学校と本学は、これまで歯科医療教育においてそれぞれの強みを活かしながら発展してまいりました。今回の協定を通じて、「より良い教育の実現」「地域の歯科医療への貢献」「研究の発展」を3本柱として、連携をさらに強化してまいります。



左から、北海道歯科技術専門学校 澁谷教務部長、白川理事長、岩崎校長、本学 三国学長、古市歯学部部長、岡橋校長

## 北海道と包括連携協定を締結しました

2026年2月4日(水)、北海道医療大学は北海道と包括連携協定を締結いたしました。

北海道医療大学と北海道は、北海道の活性化に向けて、相互に連携・協力しながら、協同事業に取り組むことを目的として包括連携協定を締結いたしました。今後、本連携協定に基づく各種の連携事業を実施してまいります。



左から、鈴木直道北海道知事、三国久美学長

# 地域貢献活動・ 職業体験イベント

9月  
September

## サツドラFES 2025

2025年9月27日(土)・28日(日)、つどむにて開催された「サツドラFES 2025」の子ども体験ブースに本学が参加しました。参加者には白衣を着用してもらい、27日(土)は歯科医師のお仕事体験として、人工歯を使った虫歯治療体験や指の印象採得を行いました。28日(日)は歯科衛生士体験として歯面研磨やシーラント(虫歯予防処置)体験、RDテスト(唾液による虫歯チェック)も行いました。2日間の参加者は300人を超え、本学でめざすことができる職種の一部を体験していただきました。

10月  
October

## 包括提携協定を結ぶ中標津町にて 理学療法学科岩部講師による教育 プログラムが開催されました

2025年度の教育向上改善プログラム「難病患者のニーズ調査と支援活動を通じた高学年学生のプロフェッショナリズム涵養プログラム」の一環として、2025年10月4日(土)と5日(日)の2日間にわたり、包括連携協定を締結している中標津町で活動を実施しました。

このプログラムは、将来の医療専門職をめざす学生が、難病と共に地域で生活する患者様との対話や支援活動を通して、使命感や責任感を育むことなどを目的としています。今回の活動は、理学療法学科の岩部達也講師と中村英雄助教が中心となり、一般財団法人 北海道難病連および中標津町のご協力のもとで実現しました。当日は、中標津経済センターなかまっぴを会場に、学生たちが難病患者様やそのご家族に直接インタビューを行いました。日常生活でのリハビリテーションに関するお悩みやご希望を真摯に伺い、教科書だけでは得られない「生の声」に耳を傾ける貴重な機会となりました。本学では、今後も地域医療への貢献を目指し、このような実践的な学びの機会を積極的に創出してまいります。



1月  
January

## 南幌町の学習交流会で薬学部 奥田助教が講師を務めました

2026年1月28日(水)、南幌町保健福祉総合センターにおいて、薬学部の奥田衣理助教が南幌町在住の町民の皆さまを対象とした学習交流会の講師を務めました。この交流会は、南幌町社会福祉協議会が介護支援ボランティアポイント事業の一環として実施しているものです。当日は39名の住民の方々が参加されました。奥田助教は「くすりの正しい飲み方」をテーマに、身近な事例や簡単な実験、クイズを交えながら、薬を安全かつ効果的に使うためのポイントをわかりやすく解説しました。参加者からは、ご自身が服用している薬に関する質問も多く寄せられ、活発な意見交換が行われました。終始和やかな雰囲気の中で、薬の正しい知識を学ぶ有意義な時間となりました。

9月  
September

## 『元気フェスティバルinきたひろしま 2025』にブースを出展しました

2025年9月7日(日)、北広島市総合体育館で開催された『元気フェスティバルinきたひろしま2025』において、本学から歯科衛生士専門学校の教員2名と学生4名が参加し、ブースを出展しました。

ブースでは、唾液を用いた「虫歯になりやすさ測定」のほか、「歯磨き方法」や「歯磨き粉の選び方」などをテーマに体験型の企画を行いました。当日はあいにくの天候にもかかわらず、お子様からご年配の方まで約30名にご参加いただきました。本学では、今後も地域の皆さまの健康増進に貢献できるよう活動を続けてまいります。



10月  
October

## 病院ではたらく 福祉のしごと体験講座in北広島市

2025年10月13日(月・祝)、北広島市にて、本年度2回目の「病院ではたらく福祉のしごと体験講座」を開催しました。社会福祉法人北ひろしま福祉会・社会医療法人母恋日鋼記念病院・北海道医療大学病院の協力のもと、看護福祉学部福祉マネジメント学科が主催(後援:一般社団法人北海道医療ソーシャルワーカー協会、福祉マネジメント学科同窓会)。福祉マネジメント学科の在学生が中心となり、社会医療法人母恋日鋼記念病院の医療ソーシャルワーカー(MSW)と一緒に運営した企画です。

今回の内容は、思いがけない妊娠(妊娠5か月)と分かったばかりのとまどう妊婦にMSWが寄り添うというもので、とまどいの向こう側にある「産みたい」想いと、「不安」をキャッチし、助産師、市町村保健師、児童相談所、社会福祉協議会などを、次々に妊婦のサポーターにしていきます。この様子を参加者と一緒に、ロールプレイと動画で確認し、在学生からの疑問に現場のMSWが答える形式で開催しました。

いのちの重さとMSW支援の可能性を感じることでできる体験講座となりました。

12月  
December

## 医療職体験ビレッジ 帯広版 見る知る薬剤師・歯科医師

2025年12月21日(日)、岡書 帯広イーストモール店にて、薬剤師・歯科医師の職業体験イベントを開催しました。当日は小学生から高校生までたくさんの方々が薬剤師や歯科医師のお仕事を体験していただきました。薬剤師の体験ではお菓子を使った分包体験、アロマオイルを使ったアロマスプレーづくり体験を用意し、歯科医師の体験では義歯を使った虫歯の治療体験を用意しました。このイベントは、本学薬学部同窓会が中心となって企画したもので、歯学部同窓会・本学教員・在学生に加え、帯広市で現役の薬剤師・歯科医師として活躍する卒業生がスタッフとして参加しました。



## TOPICS 01

### 第59回日本臨床検査医学会北海道支部総会で 本学大学院生2名が優秀演題賞を受賞しました

2025年9月27日(土)に北海道赤十字血液センターで開催された第59回日本臨床検査医学会北海道支部総会において、本学の大学院生2名が優秀演題賞を受賞いたしました。本学会には、臨床検査医や臨床検査技師をはじめ、臨床検査学の研究者が多数参加していました。

■古高裕導(博士課程1年)

受賞演題: エゾウコギはデキストラン硫酸ナトリウム誘発急性大腸炎モデルマウスの予防に効果がある

■中村優月(修士課程1年)※2年連続受賞

受賞演題: アストロサイトにおける脂肪滴サイズの画像解析



## TOPICS 02

### SCP(学生キャンパス副学長)が 「くすりと健康のクイズ&パネル展」に参加しました

2025年10月19日(日)に札幌駅前地下歩行空間にて開催された札幌薬剤師会主催の「くすりと健康のクイズ&パネル展」にSCP(学生キャンパス副学長)を中心に薬学部所属学生6名、教員1名が参加し、市民の方に向けた薬物乱用防止の啓発活動を行いました。

医療大ブースではアロマオイルを用いたオリジナルスプレーの調剤体験を通じて参加者の皆さんに身近な薬物との関わり方についてや薬剤師としての役割を説明しました。



## TOPICS 03

### 第76回日本電気泳動学会学術集会にて、 本学大学院生2名が優秀演題賞を受賞しました

2025年10月24日(金)～26日(日)に愛媛大学で開催された第76回日本電気泳動学会学術集会において、本学の大学院生2名が優秀演題賞を受賞いたしました。本学会には、医師、臨床検査技師、生命科学研究者などが多数参加していました。

■中村優月(修士課程1年)

受賞演題: 不飽和脂肪酸種とApoA1/E-HDLによるアストロサイトの脂肪滴形成

■秋田谷悦志(修士課程2年)

演題名: 酸化ApoE-HDLがアストロサイトの細胞内脂質・酸化ストレス代謝に及ぼす影響



## TOPICS 04

### 歯学部3年生、山本史織さんが学生アイデアファ クトリー2025でゴールド賞を受賞しました

2025年10月25日(土)に、日本科学未来館(東京・お台場)で開催された学生アイデアファクトリー 2025 ファイナルプレゼンテーションにおいて、本学歯学部3年生の山本史織さんが、GOLD賞(株式会社オズマピーアール)を受賞しました。受賞演題は、「咀嚼できなくても“おいしい”はつくれるか?」です。『学生アイデアファクトリー』とは、「日本の科学を、もっと元気に。」をスローガンに大学生・高専生・短大生が自主的に温めてきた独創的な研究アイデアを発掘し、支援するプロジェクトです。

山本さんは、咀嚼が困難な方のために嚥下食版のパン(ベーコンエビ)を作り、咀嚼の触感を人工的に開発する研究計画を策定し発表しました。本研究計画は、超高齢社会で急増する摂食嚥下障害(食べる機能の障害)を持った患者さんのQOL(人生・生活の質)改善のために新たな知見をもたらすものとして高く評価されました。



## TOPICS 05

### SCP(学生キャンパス副学長)× 北海道医療大学後援会コラボ「応援メン」

2026年1月14日(水)～1月27日(火)の約2週間、定期試験、国家試験の勉強に励む学生に向けて「おにぎり弁当」を無料で提供しました。SCPと後援会のコラボによる「応援メン」は、2023年から実施し、今年で3回目となりました。学内で自習する学生や自宅で頑張る学生をサポートしたいという同窓生の想いが繋がっているようです。



## TOPICS 06

### 「とうべつ・ゆるエコ・マルシェ 2025」で行われた ブックトレードに、SCPと学生が協力しました

2025年12月13日(土)、当別赤れんが6号 ふれあい倉庫 カルチャーホールで開催された「とうべつ・ゆるエコ・マルシェ 2025」に、SCPを中心とした本学の学生が協力しました。同イベントは、2050年度までに温室効果ガス排出実質ゼロを目指している当別町が主催。環境問題について楽しく学べる新しいイベントです。その一環として実施された企画である、おすすめ本の交換市「ブックトレード」のために、SCPが当別キャンパス内で、学生の読み終わったおすすめ本を募集しました。次の読み手へのメッセージを添えたおすすめ本を持ってきた学生は引換券を受け取り、イベント当日に誰かのおすすめ本と交換できるという企画です。

# ポラリス基金のご案内

本学を支えてくださる皆さまへ

1974年に創立した北海道医療大学は、2024年に50周年を迎えました。  
創立以来、たくさんの皆さまに支えられ、  
保健・医療・福祉の連携統合をめざす創造的な教育の推進、確かな知識・技術と  
幅広い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人の育成に努めて、  
現在では2万4千名を超える卒業生を輩出しています。  
次の50年に向けて、本学を支えていただく皆さまとともにこれからも邁進する所存です。  
より一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



## 一般寄付

卒業生の応援を目的に卒業生が携わっている企業の商品や、  
連携協定を締結している自治体の応援を目的とした自治体ゆかりの商品などさまざまな返礼品をご用意しています。

寄付金額 10,000円～

宝永餃子  
天然酵母パンセット  
亜麻仁油ドレッシング など

寄付金額 30,000円～

スモークサーモン切り落とし  
しゃぶしゃぶセット  
北海道トイレットロール など

寄付金額 20,000円～

味付けラム肉食べ比べ  
滝川クラフトビール  
創立50周年記念ワイン など

寄付金額 50,000円～

ななつぼし(精米10kg)



## 特定の研究者・研究室等へのご支援

各研究室(教員)・研究プロジェクトなど、ご指定いただいた研究活動に活用させていただきます。  
次世代を担っていく研究者の育成のために、皆様からのご支援をお願い申し上げます。

※返礼品はございません。返礼品をご希望の場合は「一般寄付」をご確認ください。

## 寄付のしかた

インターネットによるお申し込み (クレジットカード・コンビニエンスストア・Pay-easy)

パソコン、スマートフォンなどからアクセスし、煩雑な手続きを経ずご寄付いただけます。なお、インターネットによるお申し込みは、学園が寄付の決済代行を委託している株式会社エフレジの「F-REGI寄付支払い」を利用したお手続きとなります。



STEP1.



STEP2.



STEP3.

スマートフォンからのご寄付  
お申し込みはこちら

[polaris.hoku-iryo-u.ac.jp/](http://polaris.hoku-iryo-u.ac.jp/)



銀行振り込みによるお申し込み

金融機関ATMやネットバンキング、銀行窓口からご寄付いただけます。寄付申込書をダウンロードするボタンから寄付申込書を印刷し、必要事項をご記入のうえ、以下のお問い合わせ先まで郵送またはEメールでお送りください。なお、電話連絡いただけましたら、郵送にて寄付申込書をお届けします。

税制上の優遇措置

個人、法人を問わず、寄付者の皆様には寄付金額に応じて寄付金控除を受けることができます。詳細は、ホームページ左側の「税制上の優遇措置」からご確認ください。

ご寄付に関する  
お問い合わせ先

北海道医療大学 学術交流推進部

TEL 0133-23-1129

FAX 0133-23-1296

E-mail [kyousui@hoku-iryo-u.ac.jp](mailto:kyousui@hoku-iryo-u.ac.jp)



薬学部  
教授  
大橋 敦子

「定年を迎えて」

2003年5月に本学薬学部に着任して以来23年近くの日々が過ぎ、この3月に定年を迎えることになりました。4月からは薬学教育支援室の薬理担当として教育の機会をいただいております。ここまで教職員の皆様のご指導・ご支援をいただいて無事に勤めることができました。お世話になりました教職員の皆様、一緒に時を過ごした学生さんたち、関係者の皆様により感謝申し上げます。

私は、北海道に憧れて北大獣医に進学し薬理に興味を持ち、卒業後は東京都老人総合研究所(現東京都健康長寿医療センター)にて自律神経生理学と老化研究に取り組みました。そのご縁で鳥村佳一先生に臨床薬理毒理学教室に迎えていただき、生理学と薬理学の講義を担当してきました。着任当時、本学は薬剤師国試合格率全国トップクラスを誇っていましたが、いつのまにか時代の荒波が立ち始めていたのかもしれない。薬学部6年制がスタートした2006年度の前年から他県で薬学部が乱立して道外から来る学生が減少し、一方で薬剤師国試合格率が他の医療系国試に比べて低いことから、薬学部はコストが悪い6年制で学費がかか

る上に免許取得が難しいと人気が低下しました。そして近年、日本全体の少子化がはっきりと目に見えるようになり、荒波の中を必死で渡っている状況となっています。そのような状況の中、2025年度から薬学教育支援室に移り、学生さんたちと一緒にコツコツ勉強しています。というのは、支援室にいるとびっくする質問を直接受けるので、教えているつもりで伝わっていないことが驚くほどあることに今更ながら遅まきながら気づいたのです。

世の中がどう変わろうと、自分を助け人を助けるのは、コツコツ身につけた知識や技術であり、必死で手に入れた資格や人脈であることはこれからも変わらないでしょう。ご縁があって本学を選んでくれた学生さんたちが医療人として幸せな人生を送ってくれることを今までもこれからも心から願っています。同じ思いで協力し合ってきた教職員の皆様、お力添えをいただいた関係者の皆様に改めて感謝いたします。そして、北広島での新しい門出が本学の発展と進化に繋がっていくことを心より祈念いたします。



歯学部  
教授  
安彦 善裕

「顕微鏡の先で、こころと世界に出会う」

このたび、私は本年3月をもちまして定年を迎えることとなりました。振り返れば、教育・研究・診療のいずれにおいても、多くの人とのお出合いに支えられて歩んできた年月でした。

病理学を専門とした大学院を修了した後、カナダ・バンクーバーへ渡り、2年半にわたるポスドク生活を送りました。異国での研究生活は決して楽なものではありませんでしたが、研究に向き合う姿勢や国際的な視野の大切さを学ぶ、かけがえのない経験となりました。そしてその経験を経て、1992年11月に本学歯学部口腔病理学講座へ赴任しました。

2005年には、大学病院の機能があいの里へ移転したことを契機に、大学病院の口腔内科学系の教授として診療の現場に深く関わることになりました。そして2011年には、再び本学歯学部口腔病理学講座の臨床口腔病理学分野の教授として教育・研究の現場に戻り、学生や大学院生の指導に携わることとなりました。基

礎と診療の双方に関わる機会を得たことは、私にとって大きな財産であったと感じています。また、その間、国際交流にも携わり、多くの海外の大学や研究者、学生とのつながりを築く機会に恵まれました。異なる文化や教育環境に触れる中で得た経験は、私の教育観や研究姿勢をより広いものにしてくれたと感じています。

口腔内科の外来で出会った患者さんの多くは、病理学的な異常だけでは説明できない症状に悩む、いわゆる歯科心身症の方々でした。その現実に向き合う中で、人のこころと身体との関係をより深く理解する必要性を感じ、公認心理師の資格を取得し、歯科心身症の患者さんの診療にも携わってきました。歯科医療は、単に歯や口腔の疾患を治すだけのものではありません。患者さん一人ひとりを総合的に理解しようとする姿勢があつてこそ、本当の意味での医療が成り立つのだと思います。

これまで出会い、支えてくださったすべての皆さまに、心から感謝申し上げます。これからも引き続き、どうぞよろしくお願ひいたします。



歯学部  
教授  
照光 真

「北海道医療大学でゴール」

自分の履歴書は職歴記載欄が一杯になっていきます。結局、半生以上のキャリアを大学人として過ごしてきました。キャリアとは、『働くこと+生き方』であり、その背景には4つの要素、1)経過(自分史)、2)環境(自己他者関係)、3)意志、4)偶然(実は必然か)が、作用しているとされます。自分は歯科診療の安心と安全を守る歯科麻酔医を専門としています。最初の大学は早稲田大学第一文芸部 心理学専攻を卒業しています。関係ないように見えますが、心理学とは認知や行動を定量化する精神物理学的測定法が主役で、ここで培った科学的な研究手法が後の大学キャリアに役立ってきます。卒後は、出版社からテレビ局で、アナウンサーからプロデューサーまでを経験して、多種多様な人々と分野、組織に触れ、最終的には人の生老病死に思いを至らせるようになり、医歯学を学びたいと発起して、新潟大学歯学部に入学しました。歯科の分野でも歯科治療恐怖や疼痛管理は、心理学ともかかわるので、ここは自分がやるしかない、大学院は歯科麻酔へ、そして神経や脳に関する研究を新潟大学脳研究所で取り組みました。研究の師は科学に極め

て厳格で、科学研究に対する基盤を築くこととなり、ここには結局、准教授まで居ることとなりました。その後、新潟大歯科麻酔へと戻り、職歴欄の最後の行に斜倉曲折の末たどり着いたのが、2010年夏、本学でした。

救急救命には「救命の連鎖」という言葉があります。救急に携わったスタッフは次の救急機関に患者さんをできるだけ良い状態で引き継がなくてはなりません。本学での仕事は、歯科麻酔の経験、知識、考え方を次の世代へと、講座が発展できるように良い状態で次に、臨床のなぜ?どうしてを解決するために、どのような方法やアプローチで大きな問題の山を突き崩してゆかを次の臨床医や研究者へと、微力ながら繋げてゆけたのではないかと考えています。回り道ばかりしてきたキャリアですが、上記の4つの要素に揺り動かされて、ゴールにたどり着くことができました。最後に、4番目の「偶然(必然?)」がほほ笑みかけるのは、準備をしてきた者だけに対してである」という言葉があります。しっかりと備えて、みなさま、ぜひ満足のゆくキャリアをお楽しみください。



看護福祉学部  
教授  
白石 淳

「北海道医療大学での教員養成に携わらせていただいた日々 ありがとう」

2008年4月、臨床福祉学科に設けられた教職課程を担当するため、本学に着任しました。それ以来、自家用車で通勤する日々が始まりました。春には白鳥が舞い、田植えの風景、夏には牧草ロールと緑の山々、秋には黄金色の稲や野菜の収穫、そして冬には、厳しさのなかにも一面に広がる美しい雪景色がありました。これまで勤務してきた街中の大学や住宅街に囲まれた大学とは異なり、四季を感じながら過ごす日々でした。季節の移ろいを感じることができたことも、思い出の一つです。そのような環境のなかで、心優しい学生の皆さんとお会いし、ともに学ぶ時間を重ねてきました。学ぶことのほうが多かったのではと思うほど、私自身も充実した18年間を過ごさせていただきました。

本学の教職課程は、北海道においても貴重な存在です。高校の公民・福祉科、特別支援学校の免許課程が設けられており、なかでも福祉科の課程は道内で数少ない大学の一つです。そのため、学校現場からも大きな期待が寄せられてきました。また、今日の学校現場では、福祉の視点や力がこれまで以上に求められています。その基盤をもつ教員が、本学の卒業生であることを、誇りに思っています。教職

課程を履修した卒業生は、2025年度末で115名となり、そのうち63名が高校や特別支援学校の教職に就いています。道内外の各地で教員として活躍し、学年主任や実習指導教員として後輩を指導する立場に立っている先生方もいます。さらに卒業生である高校の先生に憧れ、本学の福祉学科に入学し、教職課程を履修している学生もおり、教職課程の思いが確かにつながっていると感じます。私は38年間の教職生活のうち35年間にわたり、幼児教育および初等中等教育の教員養成に携わってきました。振り返れば、学生の皆さんに十分なことができたのかと、反省や迷いが残ることもあります。それでも、卒業生の皆さんが、それぞれ懸命に歩んでいる姿を聞くと、喜びを感じます。

「教育とは何か」という問いに、私は今もはっきりと答えることができません。それでも、教育には人を、そして社会を変える力がある——教職生活を通して、そのことを確信しています。その大切な教育の場である北海道医療大学で定年を迎えられたことに、心から感謝しています。卒業生・在学生の皆さま、そして教員・職員の皆さま、ありがとうございました。



リハビリテーション科学部  
教授  
田村 至

### 「言語聴覚療法学科で過ごした34年間」

1992年4月に札幌医療福祉専門学校言語聴覚療法学科に赴任してから、心理学部、リハビリテーション科学部を経て、この春に定年退職を迎えました。これまで多くの先輩方を見送りましたが、このたび自分の順番がめぐってきました。私が言語聴覚士教育に携わった期間、資格に関して大きな変化がありました。赴任当初言語聴覚士は国家資格化されておらず、養成校もわずかで、本学園を含めても全国に5校程度しかありませんでした。1997年言語聴覚士国家資格が制定され、2000年から資格保持者が臨床現場で働くようになるまで、言語聴覚士(ST)は、国家資格のない状態が続いていました。国家資格制定以前に専門学校を卒業したSTは、現在は指導者として活躍されていますが、ST創成期の先駆者として、多大な苦勞を重ねたと推察します。その後、大学4年課程でのST養成が始まり、本学においても、2002年から心理学部、2015年からリハビリテーション科学部に言語聴覚療法学科が設置されました。国家資格ができたことでSTの教育システムが整備され、医療機関での地位も安定し、スタッフの増加とともに就職後の教育プログラムも充実しました。多くの医療機関で理学療法士(PT)、作

業療法士(OT)だけでなくSTも含めた3部門でのリハビリテーションが展開され、対象者に十分なリハビリテーションサービスが提供できるようになりました。STの重要性が認められて活躍の場が拡大した一方で、現在は全国的なSTの不足という課題があります。長年にわたり、「失語症」と「高次脳機能障害」に関する教育、研究、臨床を行い、「ことば」や「記憶」などの障害についての研究や臨床での知見を教育の場で伝達できたことは、楽しい経験でした。多くの卒業生が、次世代のSTを育てる指導者になっている姿をみるたびに大きな喜びを感じます。「ことば」や「記憶」など目に見えない脳機能障害の評価、治療には無限の難しさがありますが、一生を通して学ぶ価値がある分野と思います。身を挺して学ばせていただいた患者さんに感謝いたします。北海道医療大学で教育・研究に携わることで、多くの先生方や学生と交流できる場をいただいたこと、また「ことば」と「脳」についてさまざまな視点から考える機会が得られたことに深い充実感がありました。お世話になった先生方、学園関係者、卒業生、在学生の皆様へ感謝申し上げます。北海道医療大学の一層の発展を心より祈念いたします。



医療技術学部  
講師  
小野 誠司

### 「検査技師教育に携われた事への想い」

私が前職での定年が近くなってきた58歳の時に医療大学での教員へのお誘いを受け、59歳(2020年)に新規に開設される臨床検査学科の教員に迎えていただきました。前職は脳神経外科という病院でもあり、多くの患者様の様々な病態の変化や治療の甲斐なく最後を迎えられる方や、突然流行するいろいろな感染症に右往左往させられたり、新たな医療行為によって生まれる検査への対応、院内の多くの部署との調整を担当していたり、少人数での職場ということもあり、検査が関連する業務のマニュアル作成を行わなければならず、通常の検査の仕事以上の負荷が積み重なることもよくあり、ひたすらがむしゃらに勤務してきた中でも担当している検査の品質は患者様への最大の貢献であり、検査の技術向上には常に前向きに取り組んでいる毎日過ごす中、教員へのお誘いを受け、非常勤の講師などを経験し始めていたので、大学の教員のお仕事も興味もわき、2020年という令和に元号が変わると同じタイミングで教員

生活が始まりました。34年にわたる検査技師生活から、大学で助教からはじまった教員生活でしたが、検査学科の1期生から今年卒業の4期生まで関わらせていただき、自分の経験の一部は伝えることができたようにも感じます。昔以上に医療の変化も早く、さまざまな状況も講義の中では紹介できる内容を盛り込めたりも致しました。多職種によって行われる地域包括ケアセンター実習などを通して、検査技師の行える情報提供などにも参加でき、検査技師会の推進していた業務拡大に対する対応の側面を伝えることもできました。今後も様々な学生が入学され、多くの卒業生が巣立っていく事になると思いますが、北海道医療大学がますます学生の成長を促していく教育を推進されて卒業生の活躍を支える礎の形成に貢献されるよう願ってやみません。私は3月で定年となるのを契機に次のステップへと進んで行きますが、大学は教育の本質を今後も追い求めてください。大学関係者の皆様が目々々々進んでいかれますように。



予防医療科学センター  
教授  
岡村 敏弘

### 「北海道医療大学で定年を迎えるにあたって」

2018年6月に本学予防医療科学センター医療政策・医療管理学系の教授に就任してあっという間の7年10か月でしたが、実は1993年4月から本学の非常勤講師(当初は歯科補綴学、途中から歯科医療管理学を担当)をしておりまして、本学とは33年間という長い付き合いだったことになります。私は1985年3月に74期生として日本歯科大学を卒業し、1989年3月に日本歯科大学大学院歯学研究科臨床系歯科補綴学専攻(小林義典教授)を修了した後、日本歯科大学新潟歯学部歯科補綴学教室第1講座(旗手 敏教授)のもとで歯科助手を経て講師として研究、臨床・教育に従事しておりました。日本歯科大学在籍中に取り組んでいた研究と臨床は、咀嚼時の咀嚼系筋群の筋電図と3次元的下顎運動の同時計測による解析、篩分法による咀嚼能率の測定、下顎頭の3次元運動経路分析等による顎口腔機能の客観的評価、顎関節症の診断と治療法の確立、ブローネマルクインプラントチームの補綴責任者、在宅診療歯科診療チームの第1補綴責任者などです。そのようなことから、本学に着任後、各種咀嚼機能検査機器購入の要望書と予算請求を行い、保健所の許可をとって病院内に咀嚼機能検査室を設置し、小林國彦先生と一緒に咀嚼機能

検査マニュアルを作成しました。2016年度診療報酬改定で保険適用となった各種咀嚼機能検査は、その後の改定でも充実評価されており、今後の歯科における客観的な経過観察方法として重要な位置づけになると考えます。1992年8月から2018年3月まで、厚生労働技官として医療保険行政(保険医療機関及び保険医に対する指導と監査等)の業務に携わっていましたが、指導等で話す機会も多かったことから法律学を一から学び直し、慶應義塾大学法学部法律学科を2004年3月に卒業しました。慶應義塾大学法学部で医事法と刑事政策を担当されていた加藤久雄教授には在学中だけでなく卒業後もお世話になっておりましたので、本学歯学部で医事法学を私が担当することになったことは感慨深いことでした。

本学での7年10か月の間に、書籍(共著)1冊、原著論文4編、総説論文3編、学会座長2回、学会特別講演4回、学会発表18回、その他講演14回、学生講義等164コマさせていただきました。本学の教職員の皆様や学生の皆さんのおかげで大変貴重な経験をさせていただけたことに感謝するとともに、少しは本学に恩返しできたかな…とっております。ありがとうございました。



薬学部  
教授  
吉村 昭毅



歯学部  
教授  
越野 寿



歯学部  
教授  
入江 一元



歯学部  
准教授  
廣瀬 由紀人

以上の諸先生の他、  
薬学部 吉村昭毅 教授、  
歯学部 越野寿 教授、入江一元 教授、廣瀬由紀人 准教授が  
定年を迎えられます。ありがとうございました。

*With heartfelt thanks.*

## 2025年度 理事長表彰について

2025年度の理事長表彰式が、当別キャンパスにおいて2026年1月6日(火)に執り行われ、鈴木理事長より表彰状が授与されました。理事長表彰は、特に表彰の価値があると認められた方を対象に授与するもので2025年度は以下の方が表彰されました。

◇福祉マネジメント学科精神保健福祉学講座一同<代表:橋本菊次郎 看護福祉学部・教授>  
札幌刑務所における精神障害受刑者処遇・社会復帰支援モデル事業のメンバーとして協力し、その取り組みが全国的にも例がなく、複数の報道機関にも取り上げられるなど社会的・学術的に高く評価されました。



三国学長、鈴木助教、向谷地特任教授、橋本教授、奥田講師、鈴木理事長



薬学部  
同窓会長  
桂 正俊

## 薬学部

〈創立年:1979年 会員数:6,765名〉

薬学部同窓会は6,700名を超える会員が全国各地で活躍しております。現在同窓会の活動は、主にwebを利用した医療薬学セミナーや将来ビジョン講座などを薬剤師支援センターと共催で行っております。また、同窓会準会員である在学学生に対して、薬剤師国家試験対策講習会の追加や国家試験に向けての勉強が本格化する5年生に対して6年生の講義でも用いる薬剤師国家試験参考書(薬学セミナー発行の青本)の補助など様々な支援を行っております。また、「卒業生・在学生合同懇談会」を開催し、卒業後の進路相談をはじめ就職後に必要なスキルを若い先輩からの助言を受ける機会を設けることができました。一方、全国17支部(道内7、道外10)と医療薬学セミナーやその地域での薬業や医療に関する情報交換を行っているところです。薬学部同窓会は会員数の増加により、道内支部の細分化と道外の卒業生

が減少していることから本州支部の統合やブロック化を含めて現在進めております。また、本学主催の「医療職体験ビレッジ」への支援を行い、札幌駅地下歩行空間、紀伊屋書店札幌支店、函館高層書店そして今年度は岡書帯広イオンモール店など薬剤師の仕事を通じた伝ふるブースを設置しました。最後に、現在薬学部同窓会では在学学生のサポートとして「学修奨励金」の支給を検討しております。この事業は、学びながら尽力してまいりたいと存じます。結び、会員各位をはじめ、日頃より本会の活動をお支えいただいておりますすべての皆様のご健勝とご多幸、ならびに今後ますますのご活躍を心より祈念申し上げます。

■ <https://www.hoku-iry-u.ac.jp/~phalumni/> ■ [yaku-dousoukai@hoku-iry-u.ac.jp](mailto:yaku-dousoukai@hoku-iry-u.ac.jp)



歯学部  
同窓会長  
袁輪 隆宏

## 歯学部

〈創立年:1984年 会員数:約3,500名〉

平素より、歯学部同窓会の活動に対し、格別のご高配と多大なご支援を賜り、誠にありがとうございます。ここに謹んで深甚なる謝意を表し、心より御礼申し上げます。本会は、「会員の福祉と親睦の増進、学術研究の向上、ならびに学部の発展に寄与すること」を目的として発会し、本年をもって42年目を迎える運びとなりました。本年は43期生が巣立ち、それぞれの道へと歩みを進める一方、49期生が新たに学舎の門をくぐり、同窓会の歴史に新たな一頁が加えられます。このような歩みの中、本会は全国各地における臨床研修セミナーの開催およびその後の懇親会をはじめ、周年記念事業の実施、学生に対するOBによる応援講義、5年生の学外実習への協力、海外短期留学の支援、さらには卒業試験・国家試験・謝恩会に至るまで、継続的かつ多岐にわたる活動を展開してまいりました。また、若手会員ならびに在学学生から寄せられた要望に応えるべく、昨年7月5日には初の試みとして「ヤングフェス2026」を開催いたしました。本企画では、「勤務形態や開業」「認定医・専門医・学位」「ライフイベントと仕事の両立」など幅広いテーマを取り上げ、将来を見据えた学びの機会を提供いたしました。先輩諸氏の講話に真剣な眼差しで耳を傾ける学

生の姿は誠に印象深く、本企画の意義を強く実感するものでした。さらに、その後開催された懇親会においても世代を超えた交流が深まり、有意義な情報共有がなされたとの報告を受けております。本会は、発会以来の理念に則り、時代の変遷に即した活動を重ねてまいりました。母校がFビレッジへと移転した後も、その本質を見失うことなく、次なる50年を見据え、着実に歩みを進めてまいり所存でございます。「健康はすべてではないが、健康を失えばすべてを失う」歯科口腔医療は、まさに人々の健康を支える根幹であります。今後本分野における価値の創造と探究を重ね、社会に貢献できるよう、本会として、またその一助として、微力ながら尽力してまいりたいと存じます。結び、会員各位をはじめ、日頃より本会の活動をお支えいただいておりますすべての皆様のご健勝とご多幸、ならびに今後ますますのご活躍を心より祈念申し上げます。

■ <http://www.hoku-iry-u.com/> ■ [dousoukai-honbu@clock.ocn.ne.jp](mailto:dousoukai-honbu@clock.ocn.ne.jp)  
■ 事務局 札幌市北区北6条西6丁目2-11 第3山崎ビル4F  
TEL 011-299-9069 FAX 011-299-9609



看護学部  
同窓会長  
川村 武昭

## 看護福祉学部／看護学科・札幌医療福祉専門学校／看護学科

〈創立年:1997年 会員数:約3,300名〉

平素より同窓会活動については、格別の御理解と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。おかげさまで本会の活動間もなく30周年を迎えられる運びとなりました。偏に日頃から御尽力をいただいている同窓生の皆様をはじめ、各学部学科の同窓会役員の皆様、そして大学関係者の皆様の協力の賜です。この場をお借りして深く御礼申し上げます。さて、福祉会の主な活動内容としては、福祉マネジメント学科との協働で開催しております看護福祉学部同窓会セミナー(年2回)と、看護福祉学部学会(年1回)の企画及び運営を軸に、歯学部を始めとした4学部と歯科衛生士専門学校とともに協働で開催しております同窓会コラボ☆講演会(年1回)があります。また、これらの活動状況や各地で活躍する同窓生の近況報告等を同窓生の皆さんにお伝えする会報誌「Fukueikai」の発行やホームページの運営、そして同窓会同士の繋がりを守るものとして会員名簿の管理を行っております。また、これら同窓会活動の検討のため、同窓生で構成される同窓会理事会を年3回程度開催しております。現在、当同窓会の会員は約3,300名を数え、全国各地の保健・医療・福祉・教育をはじめとした様々な現場で活躍しています。今、同窓会として協議していることは、卒業した後も当時の同級生や先生たちと最近の状況や思いなどを双方向でやり取りができる場、誰でも戻って

来られる場を将来に残していくための作戦です。社会や時代の移り変わりとともに、人と人とのつながり方やその望む形は大きく変わりましたが、私たちがいつも誰かの支えを必要とし、また同時に、誰かを支えられる希少な存在であることに変わりはないと感じています。一人一人の存在が、どこかにいる誰かの心の支えや何かのきっかけになると思っています。同窓会活動は卒業生たちによる卒業生たちや私たちがこの世界に送り出してくれた先生、そして学び舎をつないでいく活動として、私たちの誰かの日々の挑戦や悩み、思いが、誰かにとってのモチベーションや支えになるように、そして、北海道医療大学で過ごした学生生活を思い出し、大学と自身とのつながりを振り返る機会を通じて新たなつながりをつくること、これからの大学の発展につながるのではと考えています。私たち卒業生一人一人の活躍が大学の今後の益々の発展につながることを願ひ、私たち同窓会はその仕組みを考へていきたいと思っています。それが同窓会として、卒業生として、先生や大学にできる恩返しであり、また、私たちがつながりあえる「糸」なのだと思うところです。これからもどうぞ福祉会をよろしくお願ひ致します。

■ [kango@hoku-iry-u.ac.jp](mailto:kango@hoku-iry-u.ac.jp)



福祉マネジメント学科  
同窓会長  
小畑 友希

## 看護福祉学部／福祉マネジメント学科・札幌医療福祉専門学校／介護福祉学科

〈創立年:2000年 会員数:約2,300名〉

平素より福祉・介護同窓会活動にご理解ご協力賜り感謝申し上げます。さて、私たちが福祉学を志した根底には平和への願ひがあると思います。そして、卒業後の職業人としての共通理念には、人権尊重と人間尊厳が掲げられています。当同窓会の活動は、微力ではありますが、福祉学を志して高い理念のもと日々奮闘している仲間を支えることであると思います。今年も例年通り看護福祉学部同窓会セミナーを開催しました。「主体的なキャリア形成に向けて～これまでのキャリアを活かしたキャリアアップ・キャリアチェンジ～」について、福祉からは2名の卒業生に報告いただきました。「中高生向け医療ソーシャルワーカー講座(病院ではたらく福祉のしごと講座)」、社会的養護環境下の児童を対象とした「大学へこう～1日大学生～」、「北海道地区高校生介護技術コンテスト」と、それぞれの事業に同窓会と

して後援しました。また、大学教員を含む3名以上が集まる学習会やネットワークづくり等を目的とする会に、人数に応じて助成する小規模同窓会事業も行っていきます。福祉を志す学生を増やすこと、在学中の学びを応援すること、卒業生の活動や活躍を支援すること、それぞれのチャンネルで同窓会として力添えができ、活用してもらえるような仕組みを検討していければと思います。そして、私たちは福祉の仕事に誇りを持って歩み続けていきたいと思っています。今後とも皆様のご指導ご鞭撻の程どうぞよろしくお願い申し上げます。

■ <https://www.hoku-iry-u.ac.jp/~fukudo/>  
■ [fukudo@hoku-iry-u.ac.jp](mailto:fukudo@hoku-iry-u.ac.jp)



臨床心理学科  
同窓会長  
上河邊 力

## 心理科学部／臨床心理学科

〈創立年:2006年 会員数:約840名〉

同窓会では、今年度も同窓会セミナーの開催や新入生歓迎会など、同窓生と母校を繋ぐ活動を精力的に継続しています。柱となる「同窓会セミナー」は、昨年度に引き続きオンラインと対面のハイブリッド形式を採用し、全2回の開催で延べ100名を超える方々にご参加いただきました。特筆すべきは、コロナ禍で定着したオンライン参加の利便性を維持しつつも、対面での参加者数が増えるという賑わいを取り戻した点です。今年度はコロナ禍以前の水準にまで回復し、会場は対面ならではの熱気に包まれました。セミナー後は懇親会も開催し、現場で活躍する公認心理師等の専門職から、多領域で研鑽を積む同窓生まで、世代を超えた深い交流の場となりました。また、在学生への支援も本会の重要な使命です。各イベントには毎回多くの学生が参加し、先輩方に現場のリアルな悩みやキャリア形成について熱心に質問を投げかけ、学びを得ている姿が見られます。昨年度より開始した大学講義室での新入生歓迎会も、今年度

はさらに内容を充実させて実施しました。新入生、在学生、教職員が一堂に会し、心理学にまつわる謎解きワークショップなどのチーム対抗企画や食事を楽しみながら親睦を深めました。この取り組みは新入生からも極めて高い評価を得ており入学初期の大学生活への適応(スケジュール・アパシーやドロップアウトの防止)をサポートする同窓会の新たな伝統として、今後も継続してまいります。

最後になりますが、当同窓会への変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。なお、公式LINEアカウントでは最新の活動情報を配信しております。未登録の方は、この機会にぜひご登録ください。

■ [shinri.dousoukai@gmail.com](mailto:shinri.dousoukai@gmail.com)



理学療法学科  
同窓会長  
白幡 吏矩

## リハビリテーション科学部／理学療法学科

〈創立年:2017年 会員数:628名〉

平素より理学療法学科同窓会の活動にご理解ご協力を賜り、誠にありがとうございます。日頃より活動に積極的にご協力いただいている本会役員をはじめ、同窓会会員の皆様、他学部同窓会の皆様、大学関係者の皆様に、改めて御礼申し上げます。本会は2026年9月より、設立10周年となる一年がスタートいたします。若い団体ながら、これまで様々な事業を模索し実現して参りました。武田智洋初代会長をはじめとする多くの卒業生のご尽力により、10年目を迎えられることに感慨深い思いをいっしょにしています。本会開設当初より開催している同窓会セミナーは第22回を迎え、著名な講師によるご講演は、同窓会員のみなさんらず一般参加者からも大変好評をいただいております。また、卒業生ならびに理学療法学科教員の皆様のご協力のもと、臨床に関するお悩み相談会、有志による勉強会、卒業研究発表会への賞の提供など、卒業生および在学生の日々の活動を後押しする事業を継続して参りまし

た。昨年度は、理学療法学科教員の皆様からのお声かけにより、盛岡市で開催された「リハビリ職まるごと体験デー」に同窓会員が参加し、在学生、教員、同窓会員が活動を共にする機会が実現しました。世代や立場を超えた交流は、双方にとって刺激となる大変貴重な時間となりました。今年度は、本会会員および3月に卒業を迎える新会員皆様の卒業後支援体制をさらに充実させるとともに、2027年度に開催予定の10周年記念イベントに向け、作業療法学科同窓会と準備を進めていく予定です。

今後、後援会の皆様をはじめ、他学部同窓会の皆様からご指導を賜りながら、本学の実現ならびに本会会員のさらなる活躍の一助となるべく、活動を継続して参ります。

■ <https://iryoudaibt.web.fc2.com/> ■ [iryoudaibt@gmail.com](mailto:iryoudaibt@gmail.com)

〈創立年:2017年 会員数:約310名〉



作業療法学科  
同窓会長

田丸 仁啓

### リハビリテーション科学部/作業療法学科

北海道医療大学リハビリテーション科学部作業療法学科同窓会は、卒業生相互の親睦を深めるとともに、母校の発展および在学生・卒業生への支援を目的として活動しております。本同窓会では、卒業年度や勤務分野、地域の違いを越えてつながることのできる場づくりを大切にしながら、同窓生同士の交流促進や情報共有に取り組みをまいりました。近年は、臨床現場における実践や研究活動、教育分野での取り組みなど、さまざまな領域で活躍する卒業生が互いに学び合える機会として、セミナーや情報発信を中心とした活動を行っております。こうした活動は、卒業生にとって専門職としての成長を支えるだけでなく、世代を越えたネットワーク形成にもつながっております。また、同窓会は在学生やそのご家族の皆さまに対して、作業療法士としてのキャリア形成や卒業後の進路を身近に感じていただく役割も担っていると考

えます。卒業生の多様な活躍や経験を共有することは、在学生が将来像を描くうえでの一助になるとともに、保護者の皆さまにとっても教育の成果を実感していただく機会になるものと期待しております。

今後も母校との連携を大切にしながら、同窓生が互いに支え合い、専門職として継続的に成長できる同窓会を目指して活動を進めてまいります。引き続き、皆さまの温かいご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

■ <https://ot40-jp.webnode.jp/>  
■ [hokuriyodai.ot@gmail.com](mailto:hokuriyodai.ot@gmail.com)

〈創立年:1994年 会員数:約1,500名〉



言語聴覚療法学科  
同窓会長

石黒 恵美子

### 心理科学部・リハビリテーション科学部/言語聴覚療法学科・ 札幌医療福祉専門学校/言語聴覚療法学科・言語聴覚療法専攻学科

当会は札幌医療福祉専門学校の言語聴覚療法学科の第1期卒業生により設立されました。大学の学部としてスタートしてから更に多くの卒業生を迎え、会員数約1500名の会になっております。講演会の企画・運営と会報の発行を通し現役生・卒業生の皆様への情報提供を行ってきました。今後も、同窓会セミナーの開催等を通して、会員の皆様のお役に立てるよう活動を予定しています。

りました。このような学部間の繋がりを活かしての活動は、北海道医療大学ならではの特微かと存じます。毎年、道内外の様々な先生方を講師にお迎えし、多くの皆様より好評をいただいております。これも同窓会の運営に関し、日頃より後援会の皆様・内外の先生方のご理解・ご協力をいただいているおかげです。この場をお借りして、深く御礼申し上げます。

今後も、同窓会会員の皆様はもちろんのこと、地域の皆様、大学の発展のためにお役に立てるよう、役員一同努力して参ります。

■ [st-kai@hoku-iryu-u.ac.jp](mailto:st-kai@hoku-iryu-u.ac.jp)

〈創立年:2023年 会員数:約170名〉



臨床検査学科  
同窓会長

古高 裕導

### 医療技術学部/臨床検査学科

平素より本同窓会の活動に対し、多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。本学部では昨春、三期生が新たに社会へと加わりました。現在は一期生から三期生までが、北海道を中心とした各地の医療現場で臨床検査技師として日々研鑽を積んでおります。そしてこの春、四期生が希望を胸に本学を卒業し、新たに同窓会の一員となることを心より歓迎いたします。2026年4月に設立4年目を迎える当会では、昨年度、卒後教育支援の主軸として本学部の丸川教授主導のもと「細胞診勉強会」の合宿を開催いたしました。参加した同窓生は母校の恵まれた環境を活かし、互いに切磋琢磨しながら鏡検やスクリーニングの模擬演習に熱心に取り組まれました。その成果として、この度2名の同窓生が難関である細胞検査士資格試験に

見事合格いたしました。新たなスペシャリストの誕生は、本会にとっても大きな喜びであり誇りです。また、念願であった「一期生～三期生合宿会」を執り行い、期を超えた縦のつながりを築く貴重な第一歩となりました。2026年度は、これらの活動を継続・発展させ、四期生と共にさらに活気あるネットワークの構築を目指します。最新の臨床検査技術を学ぶセミナーの拡充や卒業生同士の円滑な情報交換の場を提供し、卒業後も母校を拠点として共に学び続けられる環境を強固にすることで、本学からより質の高い臨床検査を広めていけるよう邁進いたします。

本会はまた発展途上の組織ですが、卒業生の皆様と共により活気ある会を築いていけることを楽しみにしております。今後ともご支援ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 北海道医療大学同窓会支部等連絡先

#### ■薬学部

支部名	支部長(期)
札幌支部	多田 正人(4)
道北支部	沼野 達行(10)
十勝支部	黒田 一弘(13)
道南支部	吉田 元(12)
釧根支部	米原 健秀(12)
オホーツク支部	森谷 俊憲(13)
日胆支部	寺口 元(6)
青森支部	三上 章(1)
栃木支部	豊住 暢臣(17)
茨城支部	青木 邦子(4)
北越支部	杉本 雅規(3)
神奈川支部	肥後 保仁(7)
東海支部	高尾 信彦(2)
関西支部	山口 和俊(9)
中四国支部	黒長 正明(9)
九州支部	山田 昌人(3)
沖縄支部	村田 成夫(4)

※北越支部 支部長代理

#### ■歯学部

支部名	支部長(期)	連絡先
北海道支部連合会	佐藤 明理(4)	医療法人社団明雄会そのま歯科 ☎011-387-8811
青森県支部	佐藤 孝治(2)	佐藤歯科医院 ☎0172-36-0412
岩手県支部	村井 雄司(23)	村井産婦人科小児歯科医院 ☎019-636-2233
宮城県支部	郷家 道彦(10)	郷家第二歯科医院 ☎022-223-3306
秋田県支部	石川 承平(14)	いしかわ歯科・矯正歯科 ☎018-887-3988
山形県支部	芳賀 俊和(5)	芳賀歯科医院 ☎0238-84-8107
福島県支部	外島 昭夫(7)	ホワイト歯科医院 ☎024-875-3232
茨城県支部	秦 博文(2)	社会医療法人愛宣会 ひたち医療センター歯科 ☎0294-37-0713
栃木県支部	篠原 澄人(6)	しのはら歯科クリニック ☎0282-82-6656
群馬県支部		
埼玉県支部	柿沼 信和(10)	ひやり歯科医院 ☎0480-69-1600
千葉県支部	寺山 功(4)	葉山歯科医院 ☎0471-64-6480
東京都支部	蛇名 勝之(5)	エビナ歯科医院 ☎03-3200-4818

#### ■看護福祉学部

☎0133-23-1211  
○看護学科(内線:3641)担当:明野(実践基礎看護学講座)  
○福祉マネジメント学科(内線:3708)担当:池森(介護福祉学講座)

#### ■心理科学部・リハビリテーション科学部

☎0133-23-1211(学務部 心理科学課・リハビリテーション科学課)  
○臨床心理学科 ○作業療法学科  
○理学療法学科 ○言語聴覚療法学科



歯科衛生士専門学校  
同窓会長

梶 美奈子

### 歯学部附属歯科衛生士専門学校

皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は、本同窓会の運営に対し、ご理解とご協力を賜りまして厚くお礼申し上げます。1991年に既卒者を中心に結成され、ほんの僅かな人数で同窓会がどのようなものか?どんなことをするのか?全くわからぬままスタートした本同窓会も30年の時を重ね会員数は1,300名を超える大所帯となりました。30年を超えて会を無事運営継続できたのも会員の皆様やご家族の皆様のご協力と日々会の運営のために努力を惜しまない理事や代表者、皆様のおかげであると感謝しております。1948年に修業年限1年制で始まった歯科衛生士の教育年限が2012年度以降64年の時を経て3年以上となりました。時代と共に求められるものが増えて「歯科衛生士」という職業そのものが広く社会に知られてきたと感じております。歯科衛生士はあらゆるライフステージに関わり、あらゆる状況に対応するようになっています。う蝕(ムシバ)や歯周病はもちろんのこと、口

〈創立年:1991年 正会員数:約1,387名、準会員:18名、特別会員:8名〉

腔癌、インプラント、摂食嚥下、歯科訪問診療などあらゆる場面で患者さんのQOLの向上のために必要な職種となったのです。さらに疾患のある方は勿論、疾患のない方へも予防を中心に関わることも多くあります。また歯科衛生士は臨床の場のみでなく教育、研究、企業など幅広い範囲で活躍しています。実際に、同窓生から本校の校長が選出されました。歯科衛生士の持つ可能性が大きいことを表しています。

2026年春には新しい教育を受け、新しい考えを有する皆様卒業されます。そんな素敵な皆様をはじめ会員の皆様にとって、より有益な同窓会であるように努力いたします。

■ <https://www.hoku-iryu-u.ac.jp/katakuri/>  
■ [ohyama@hoku-iryu-u.ac.jp](mailto:ohyama@hoku-iryu-u.ac.jp)

歯学部附属歯科衛生士専門学校同窓会支部連絡先

北海道医療大学歯学部附属歯科衛生士専門学校 ☎0133-23-1211(内線:3482)担当:大山・岡橋

卒業生を対象とした各セミナー・  
公開講座に関するお問い合わせ先

学術交流推進部 地域連携課 ☎0133-23-1129(直通) E-mail:nice@hoku-iryu-u.ac.jp

## 本学心理科学部が「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」の「応用基礎レベルプラス(学部・学科単位)」に選定されました

北海道医療大学では、全国の医療系大学に先駆けてデータサイエンス教育を導入してまいりました。令和3年度には、文部科学省による認定制度である「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(MDASH)」のリテラシーレベルに認定され、認定を受けた教育プログラムの中から、特に優れたプログラムとして、リテラシーレベルプラスにも選定されています。また、令和6年度には、リテラシーレベルプラスに加え、医療技術学部における教育プログラムが応用基礎レベルに認定され、さらに、応用基礎レベルプラスにも選定されました。

この度、あらたに心理科学部における教育プログラムが応用基礎レベルに認定され、さらに、応用基礎レベルプラスにも選定されました。



## 本学看護福祉学部看護学科長の桑原教授が当別町より「社会貢献賞」を受賞しました。

看護福祉学部看護学科長の桑原ゆみ教授が、当別町の令和7年度「社会貢献賞」を受賞しました。

桑原教授は平成17年10月から20年間にわたり「当別町国民健康保険運営協議会」の委員として国民健康保険事業の運営や社会保障及び当別町民の保健向上にご尽力され、当別町に大きく貢献したことが今回の受賞となりました。



## 本学看護福祉学部看護学科が、日本看護学教育評価機構による看護学教育評価を受審し、「適合」の評価を受けました

本学看護福祉学部看護学科は、日本看護学教育評価機構による看護学教育評価を受審し、「適合」の評価を受けました。認定期間は2026年4月1日から2033年3月31日までの7年間です。本学の建学の理念に基づく教育目的や、看護学科の教育理念は明確であり、ディプロマ・ポリシーをはじめとする三つのポリシーの一貫性、教育課程の体系的が高く評価されました。PBLやTBL、OSCEの導入、充実した実習環

境、地域と連携した探究的学修など、学生の主体的な学びを支える取り組みも特長として挙げられています。一方で、ディプロマ・ポリシー到達度評価の整理や教員体制の充実など、改善に向けた課題も示されました。本学では、これらの指摘を踏まえ、今後も看護学教育の質向上に努めていきます。

### EDITOR'S NOTE

もうすぐ春がやってきます。原稿を書いている今の時点では、すでに国家試験を終えてほっと一息ついた学部もあれば、これから本番を迎える学部もあり、キャンパスには安堵と緊張が入り混じった空気が漂っています。卒業を迎える学生たちの表情には、期待と名残惜しさが同居しており、その姿を見るたびに、この季節ならではの温かさを感じます。卒業生の皆さん、本当におめでとうございます。

今年は冬季オリンピックが開催され、日本人選手がいくつもメダルを獲得し、その活躍に胸を熱くしました。華やかな舞台の裏には、日々の地道な努力が積み重なっています。競技の分析やトレーニングの効率化には、きっとAIをはじめとする最新技術も取り入れられているでしょう。それでも最後に結果を左右するのは、技術をどう使いこなし、自分の成長につなげていくかという“人”の部分なのだと感じます。

「コスバ」や「タイバ」といった言葉が当たり前のように使われる時代になり、効率の良さが重視されるようになりました。もちろん効率化は大切ですが、スポーツ選手たちの姿を見ると、最新技術をただ使うだけではなく、自分の血肉に変えながら前に進む力こそが成長なのだと気づかれます。

本学では、この春から臨床データサイエンス学環が新設されます。AIやデータ解析といった先端技術を学ぶ場が広がることで、学生の皆さんが“技術を使える人”にとどまらず、“技術を自分の成長に結びつけられる人”へと育てていくことを期待しています。

最後に、こうして学生の皆さんの成長について思いを巡らせていると、大学そのものも成長し続けていく必要があると感じます。臨床データサイエンス学環の開設に続き、2028年には全ての学部教育の場が北広島市へと移ります。環境の変化を力に変えながら、北海道医療大学も成長を続けていきます。これからの歩みを、皆さまも温かいご支援で後押ししていただけますと幸いです。

(T.M.記)

## ADVANCE

北海道医療大学広報誌 No.186

STAFF ● 町田 拓自 鹿内 ヲ 鹿内 浩樹 會田 英紀 横津 尚史  
内ヶ島伸也 片山 寛信 鈴木 和 齊藤 恵一  
上河邊 力 長谷川純子 山田 桃子 葛西 聡子  
近藤 啓 高橋 祐輔 千葉 利代 三川 清輝  
小林 昭博 南谷 賢宏 今井 結香

発行日 ● 2026年3月

編集・発行 ● 北海道医療大学広報部 入試広報課

〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757

TEL:0133-22-2113

http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/

広報誌についてのご意見・ご要望・情報等をお待ちしています。

E-mail:nyushi@hoku-iryo-u.ac.jp



### 北海道医療大学の教育理念

生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広い深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって地域社会ならびに国際社会に貢献することを北海道医療大学の教育理念とする。